

循環型岩手

永田 悠介

私は十年後、岩手の発展のために働いていると思います。私が望む岩手の発展は、商業の面での発展ではなく農業の面での発展です。なぜなら、商業で栄えたとしても現在のように世界的な不景気になってしまうと一気に県全体が落ち込んでしまうからです。そして、岩手の広い土地を利用するには農業や酪農が一番だと思うからです。

私は大学で微生物について勉強したいと思っています。そのため、今年の秋に奥中山にある土里夢農場へ見学に行きました。そこでは牛の糞や、し尿を微生物によって発酵させてメタンガスを取り、その後はたい肥として牛の飼料となるデントコーンを作るのに使用していました。バイオガス施設を促進させることによって化学肥料の使用量が減り、環境へ与える影響をかなり抑えることができるようになります。家畜の糞や、し尿を利用したバイオガス施設は岩手の土地でも特に、大型機械を使って農作物を育てることが大変な中山間地を利用することがベストだと考えています。なぜなら、効率的に運営するためにはかなりの家畜の数が必要になるため、奥中山のような広く涼しい土地が不可欠だからです。

牛などの家畜の糞や、し尿を発酵させてメタンガスを取った後はたい肥として作物を作るために利用することを県全体で行い、「エコ」な県だと全国にアピールする。こうすることで、他の県から視察する人も来て他の産業も潤ってくると思います。そして、作った作物をブランド化することで、「食の安全」について気にしたり、地球環境に関心を持ったりしている消費者達の購買意欲を喚起することが出来ると思います。ブランド化することで価格を一定に保ち、この産業に関る人たちにしっかりと利益が行き渡ることにより品質の良いものを作ることが出来ると思います。そうなることで、若い人たちに魅力ある産業だと思ってもらうことができ、岩手の農業人口も増えると思います。たとえ他の製品よりも少し価格が高くて、「岩手の牛乳なら」と、岩手の物は品質が良く信用でき「本当のエコ」な商品だということで購入してもらえらると思います。

しかし、これは消費者達の理解があってこそその話です。そのため、積極的に宣伝を兼ねて消費者達へアピールすることが必要です。このアピールの仕方が上手いのが宮崎県の東国原知事だと思います。元芸能人ということも宣伝が上手くいったことの一つだと思いますが、マスコミに対して宣伝を徹底していたことが一番の理由だと思います。テレビに出演した時は必ずと言っていいほど宮崎の物が出ていました。

このようにして、宣伝と岩手の物を理解してもらうためにマスコミを利用することが広く消費者に理解してもらい、宣伝することができると思いました。

私は大学の農学部への進学が決まりました。十年後には大学で学んだ知識を活かして、耕畜連携を含めて捨てていたものや使い道がなかったものを、地球環境に良い形で利用できる資源循環型の社会を岩手から発信させたいと思います。

岩手の豊かな自然と共生して生きていくためには、自然環境に配慮した生活をする必要があります。すでに岩手には実行に移している人たちもいます。丑年の今年、岩手の年だと知事が言われました。牛は牛乳などの乳製品や肉だけではないことを県民に理解してもらい、全国に広めるアクションをおこすのにちょうどよい年だと思いました。